

第5学年1組・2組 国語科学習指導案

- 1 単元名 人物の考え方や生き方をとらえよう
「わらぐつの中の神様」 （光村図書）

2 単元の目標

- ・「わらぐつの中の神様」や他の本を、生き方・考え方を意識しながら進んで読み、自分の考えを広げたり深めたりしようとする。 【関心・意欲・態度】
- ・行動描写・会話などから人物像を読み取り、人物の考え方・生き方を比べることで、自分なりの感想をもつことができる。 【読むこと エ】
- ・人物の生き方考え方を交流し合うことで、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。 【読むこと オ】
- ・現在—過去—現在という物語の構成や擬音語・擬態語について、その効果が分かる。【言語事項イ(キ)】

3 指導にあたって

(1) 教材について

本単元「人物の考え方や生き方をとらえよう」は、物語「わらぐつの中の神様」の読みを通して、人物の考え方や生き方をとらえる単元である。

物語の構成は、現在—過去—現在の額縁構成となっている。おばあちゃんの語りを聞く前のマサエと、聞いた後のマサエの変容は、「人物の考え方や生き方」をとらえる上での大切な叙述となる。物語中の「おみつさん」は、正直者でやさしく、何よりも純粹であることから、児童は共感的にとらえるだろう。そのおみつさんの仕事への誠実さ、相手を思いやるやさしさに価値をおいた大工さん。このおみつさんと大工さんを通して、人物の考え方や生き方をとらえていきたいとこの教材を選定した。

本教材は、人物の行動描写・心情描写・会話などを対比させることで、考え方や生き方を浮き彫りにさせていける教材である。「おばあちゃんの話聞く前のマサエと、聞いた後のマサエ」「おばあちゃん とまさえ」「おみつさんと大工さん」それぞれを対比して、相違点や共通点をみつけることで人物の生き方考え方に迫ることができると思う。

サブテキストとして、杉みき子作品「春先のひょう」を取り入れるが、この教材は「わらぐつの中の神様」と同じ額縁構成になっている。そして、中心人物のおかあさんと、「わらぐつの中の神様」のおみつさんは、仕事に対する誠実さや、相手のことを思いやるやさしさなど、共通点が多い。「わらぐつの中の神様」で読み取ったおみつさんの生き方、考え方と対比して考えることで、労働や愛とは、見かけや外見ではなく真心であるということを児童に考えさせることに適した教材である。

(2) 児童について

1学期のドキュメンタリー教材「千年の釘にいどむ」では、時間をかけて釘の性質や作り方を調べることで、鍛冶職人：白鷹さんの生き方について読み取ることができた。

また、サブテキスト「トキとつきあった127日間」では、前に読み取った白鷹さんの生き方とトキを捕まえることを任務とした宇治さんの生き方について、対比して読んでまとめる学習をした。初めに、1時間の自力解決読みの時間を取ったところ、全員が、白鷹さんと宇治さんの共通点について、根拠を挙げて示すことができた。2人の違いについては、ほとんどの児童が根拠を挙げて示すことができた。また、3分の1の児童は、根拠となる言葉を選択し、2人の共通点や相違点について内容豊かにまとめることができた。次に、2人の生き方について対話交流したところ、対比読みの良さや友達の考えを聞く楽しさを実感することができた。

学び合いについては、「学び合いをしている。」「どちらかといえば、学び合いをしている。」と答える児童が、6月85%、7月91%であった。

しかし、個々を見てみると、課題が見える。全体交流ではしっかり意見を聞いているが、発言する機会があるにもかかわらず、発言しない児童がいることである。この単元では、児童が、根拠を挙げて考えを話す話型や共通点・相違点を話す話型を習得するとともに、グループ交流の仕方を学び、聴き合う関わりを深めることができることを願っている。

(3) 活用力向上について

①課題設定の工夫

根拠となる行動描写・心情描写・会話の言葉を選択し、人物像を読み取り、人物の考え方・生き方を対比して自分なりの感想を持つ。そして、人物の考え方・生き方を交流し合うことで自分の考えを広げたり深めたりする。この言語活動をとおして、思考力、判断力、表現力を伸ばしていきたい。

単元を見通す段階では、初めに、時代背景や物語の構成についてつかませておきたい。次に、児童の感想を交流する中で、登場人物の考え方の変化に気付いたり、生き方の共通点に気付いたり、共感したりする意見が出るであろう。そこで、人物の気持ちや考え方を整理するに当たって、対比の方法があることを想起させたい。さらに、「何と何を対比するのか。」と問い返すことで、『おばあちゃんと話を聞く前のマサエ。』『おみつさんと大工さん。』『話を聞く前と後のマサエ。』『おみつさんと他の物語の登場人物。』を対比したい。」と、児童の思いを出させ、本単元の学習課題としたい。それが、児童と目的を共有し、学習の必要感を持たせることになると思う。

また、全文概観や学習計画を掲示し、既習を残すことで、14時間の学習の課題意識を常に持たせておきたい。

②協同的な学びの手立て

本単元では、児童一人ひとりが目的意識を持って課題解決の学び合いに参加できるように、一人勉強、グループ交流、全体交流の場を取る。一人勉強では、考えの根拠となる言葉について、人物ごとに色別の線を引いたり、色別のキーワードシートに書き出したりして、グループや全体の学び合いで活かすことができるようにしたい。グループ交流では、交流の目的・方法の確認や、よりよい交流の仕方などを明らかにして取り組ませたい。そして、全体交流では、グループ交流で高まった自分の意見を語らせたい。

三次の考え方・生き方について友達と交流し、自分の考えを広げたり深めたりする場では、司会、記録、全体発表など役割を分担し、協同的な学びを通して、自分の気づかない読解に出会う楽しみを体験させたいと考えている。

③評価の活用

毎時間、ノートに観点ごとの自己評価とふり返り文を書かせることで、児童と教師の評価とし、次時に活かしたい。観点ごとの自己評価では、課題について「自力解決できたか」「グループや全体での学び合いですっきりしたか」の2つの観点で4段階評価させる。この評価は、学習後人数を記録することで、児童の理解度や協同的な学びの展開がどうであったかのめやすにできる。

さらに、課題に対する解決内容をふり返って文で表す場合、「学習前と学習後の自分を比較」「納得できた友達の考え」「考え方や生き方を対比する良さ」など、書く観点を示したい。

④活用につながる基礎・基本

◎登場人物の行動や会話などを根拠に、対比しながらその人の生き方や考え方を読み取ること。

◎現在－過去－現在という物語の構成とその効果。

本単元学習後は、読書として杉みき子の作品を読んでその世界を味わいつつ、杉みき子の生き方・考え方に触れさせ、書評を書かせたい。また、3学期「大造じいさんとガン」の大造じいさんの生き方について考え、人物の考え方・生き方について広がりや深まりが出るようにしたい。

3学期には、「表現を工夫して書こう－物語を作ろう－」という書くことの領域の学習を控えている。物語の構成とその効果についてはこの単元で活用できる。

この単元でとらえさせる考え方・生き方は、労働、ものづくり、家族に対する「真心・誠実」である。児童は人物の生き方について、根拠となる言葉をあげることができても、どのような考えなのかうまく表現することができない場合もある。道徳の全体計画を調整し、道徳の時間に「真心・誠実」について考える時間を持つておきたい。また、本単元の学習がその価値について改めて考えるきっかけとなることも期待したい。また、本単元の学習は、総合的な学習の時間の学習内容である、「白山ユネスコクラブ」の活動をライフワークとしていらっしゃる方の生き方と関連していることから、国際理解について考えたり、自分のできる活動をしたりする機会になることを期待している。